

地域医療連携室だより

地域医療支援病院 登録医療機関 388 件

2014 年 2 月



医療と福祉を両輪とした重症心身障害児施設

重症心身障害児施設長 井合 瑞江

平成 24 年 4 月に児童福祉法と障害者自立支援法(平成 25 年 4 月に障害者総合支援法に名称変更)が改正されました。障害の区分けがなくなり、当重症心身障害児施設では医療型障害児入所支援(18 歳未満、児童福祉法、児童相談所)と療養介護サービス(18 歳以上、障害者総合支援法、市区町村)を掲げることになりました。しかし昭和 42 年、児童福祉法の改正で規定された旧重症心身障害児施設「重度の知的障害及び重度の肢体不自由が重複している児童を入所させて、保護、治療及び日常生活の指導をすることを目的とする」基本は医療型障害児入所支援として営々と続いています。

当施設開設当初(昭和 45 年)は社会的理由による長期入所が原則でしたが、社会・家庭・医療の変化に応じて、施設の役割も変化してきました。障害児の増加と重症化が進む中、気管切開や人工呼吸器、吸引の頻回なお子さんたちも家庭で生活するようになり、在宅支援が大きな柱となりました。

当施設が担える支援は 入所支援(長期入所・短期入所)が主なものです。神奈川県全域の重心児に広く利用していただき、年間 270 名余の短期利用があります。入所支援以外にも、通園、日中一時支援、訪問事業、地域での医療保証、教育など多岐にわたり在宅療育をバックアップする仕組みが必要です。医療と福祉、教育と多施設・多職種の間わりの中で私たちも担える形で在宅支援に参加しています。施設は複合的問題をかかえた子どもたちが生活する場であり長期入所児にとっては家でもあります。「子どもたちの生命が守られ、発達が保障され、豊かな生活を送ることができる」場所としてスタッフはかかわり方を日々深めています。昨年は重心看護の専門性を高め広める取り組みの中から 2 名の重症心身障害看護師(日本重症心身障害福祉協会認定)が誕生しています。楽しい食・ミキサー食注入、姿勢・抱き方、音楽会、行事を通じた家族との交流など、施設内で積み重ねた経験と専門性を在宅生活をともに支えてくださる様々な分野の方々と共有し、発信していきたいと思ひます。

重い障害をもっているでも充実した生活があり ひとりひとりの大切な人生、かけがえのない輝きを守り育むことは入所・在宅にかかわらず基本的なことです。

これからも在宅・地域療育に貢献する重症心身障害児施設として「こどものいのちを尊び、豊かな人間性をはぐくむために、こどもと家族生活を支援する。」を基本方針とし、施設内での生活を守り、地域との連携を様々な分野で広げていきたいと思ひます。どうぞ今後ともより一層のご支援をお願い申し上げます。



「食を通して楽しみを」～重心施設でのバイキング給食



栄養管理科長 加藤 義明

当センターでは平成 24 年度から、重心施設の入所児を対象にバイキングを実施しています。今年度は 2013 年 11 月 29 日の昼食時に実施しました。参加した入所児は 40 名で、この中には胃ろうから食事を注入している児童が含まれます。時間は 11 時 40 分から 12 時 40 分までの 1 時間でした。

ミキサー食バイキングを語る前に、当センターの概要を少し解説させてください。当センターは病院と施設が併設されているという珍しい病院です。ひとつの厨房で病院食と施設の食事を調整するという複雑かつ困難な業務をこなしております。重心児の食事の特徴としては、形態調整が必要な方が多く、ミキサー食やみじん切の形態の指示がほとんどを占めていることです。



今回のミキサー食バイキングにあたっては、栄養士も厨房に入り盛り付け作業を手伝うなど、調理スタッフとともに衛生面にも配慮した美味しい食事作りをめざしました。

さて、病院給食というとあまり良いイメージがないかもしれませんが、今は夕食の時間も 18 時で適温給食も実施していて、温かいご飯や汁物など提供しています。味付けも病院給食スタッフの努力により改善されています。ただ、ミキサー食は、食材を彩り良くミキサーにかけて盛り付けるなど工夫はしていますが、やはり元の料理がわからず、美味しなさそうなイメージが付きまといま（食べるとおいしいのですが・・・）

今回のバイキング給食で工夫したことを紹介します。まず、胃ろうから食事を注入している患児にも、バイキング給食を適応しました。これにより胃ろうからのお子さんも好きなメニューを選ぶことが可能とな



りました。次に食物アレルギーを持つ**こども**への対応です。複数のアレルギーを持つ**こども**は残念ながらバイキング給食の対象外となりますが、単品の食物アレルギーの場合はアレルギー表示の名札を作成し、除去食を用意し、禁止の料理を明示しました。

また、ミキサーにかける前の料理を展示し、本人も目で楽しめ、介護するスタッフの方々にもわかりやすい工夫をしました。さらに、ハロウインの時期でしたのでメニュー

一札もかわいい雰囲気になりました。衛生面の配慮も怠りません。バイキング給食といっても大皿盛りではなく、小さなカップに小分けして提供しました。



配膳の時間によろやく間に合い、重心施設に配膳し楽しいバイキング給食の開始です。

開始にあたって重心施設のスタッフの皆様から温かい拍手をいただき、栄養管理科スタッフはもう感激で一杯、早くも実施して良かった！という思いがこみ上げてきました。

このようなイベントは栄養管理科単独では行えません。重心施設の看護師さん、生活支援課の職員の方々、養護学校の先生などさまざまな職種の皆さんの協力や、セクション間の連携があって成り立っています。子どもたちのために心がひとつになれる。すばらしい環境がこども医療センターにはあります。

さて、ここでメニューの紹介をしたいと思います。

主 食・・・白粥、オムライス、ラーメン

おかず・・・コロッケ、ハンバーグ、ラザニア、カレー、白身魚のムース、茹で野菜のサラダ、人参グラッセ

スープ・・・コーンスープ

デザート・・・レアチーズムース、杏仁豆腐、カップケーキ、マンゴーヨーグルト



食事が始まると、びっくりするくらい良く食べてくれました。食事の介助をするスタッフも患児の嗜好をよく把握していて、的確に好きなメニューをトレーに載せていきます。バイキングなので多めに作っていったのですが、次々と料理が減っていきます。

こんなにたべられるの？食べても大丈夫なの？とこちらが心配してしまうほどです。

本当に、どこにこんな食欲があったのか、それとも普段の食事が・・・と、思わず心配になってしまうほどです。ただ、食べ終わった後の満足な顔を見ていると、まあ、そんな事はどうでもいいかな。本当にバイキング給食をして良かったーとつくづく思いました。



食事は、生きるために必要なエネルギーや栄養素の摂取が一番の目的ですが、ただそれだけではありません。食事は生きる楽しみも与えてくれます。まさに、これがバイキングのテーマなのです。食を通して**こども**と家族や病棟スタッフが楽しい時間を共有することができる。大変だけれども得るものも多くあります。多職種が協働して患者さんのために、いま何ができるのかを考え、そしてその実現に向かって進んでいくことが大切だと思います。



神奈川県立こども医療センターの基本理念と基本方針

1 基本理念

こどもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

2 わたしたちのちかい

あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせませます。

3 基本方針

- (1) 患者さんの命と安全を第一に考えます。
- (2) 患者さんと家族とともに医療を行います。
- (3) 高度、先進的な医療を行うとともに、積極的に臨床研究に取り組みます。
- (4) こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
- (5) 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
- (6) 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
- (7) 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。

神奈川県立こども医療センター・研修のご案内

第7回 神奈川県小児重症例検討会

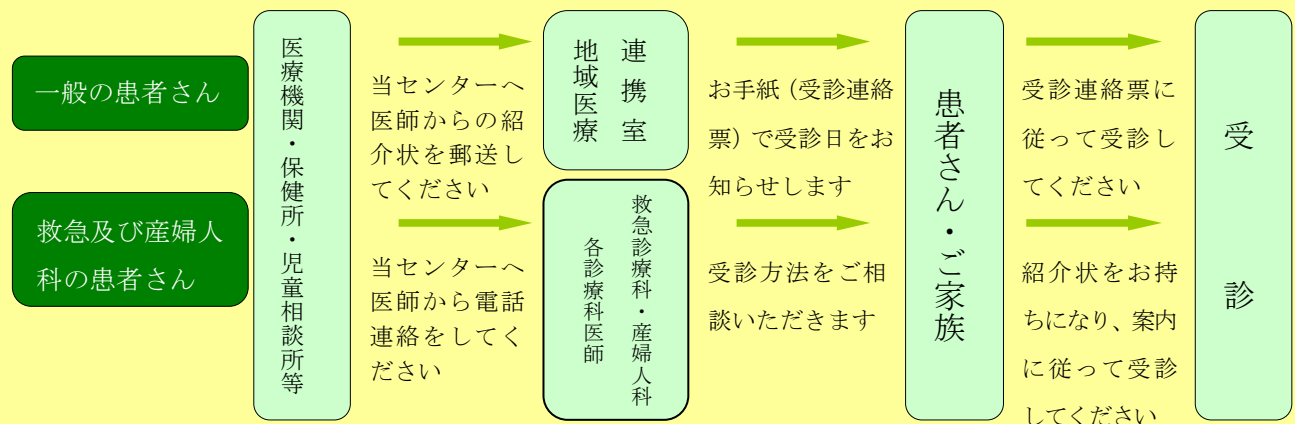
- ☆ 日時：平成26年3月14日(金)19:00～21:00
 - ☆ 場所：当センター本館2階講堂
 - ☆ お問い合わせ：地域医療連携室
- ※ 詳細はホームページに掲載予定です

第23回 胎児診断症例報告会

- ☆ 日時：平成26年3月23日(日)10:00～17:30
 - ☆ 場所：当センター本館2階講堂
 - ☆ お問い合わせ：新生児科 川瀧医師
- ※ 詳細はホームページに掲載予定です

【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等からご紹介いただいた患者さんが、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※紹介状の添付資料(画像やフィルム等)も紹介状と併せて事前にお送りください。

※紹介状用紙(料金受取人払)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください

編集・発行

神奈川県立こども医療センター 地域医療連携室
〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 TEL 045(711)2351 FAX 045(710)1933
<http://kanagawa-pho.jp/osirase/byouin/kodomo/>

